



校長室だより

令和6年度
10月29日
NO. 31

感動☆成長☆感謝の学芸会



6年 劇
「きよしこ」



4年 劇
「魔界とぼくらの愛戦争」



1・2年 劇
「ふくとうのそめものや」



全校 音楽
「ジブリ大さんぽのおもいで」



5年 劇
「夢から醒めた夢」



3年 劇
「本当のたからものは？」

「きよしこ」の作者、重松清さんの小説では、どこにでもいそうな普通の人には焦点が当てられ、心に孤独や重荷を背負った人たちの、現代における人間関係が描き出されます。「きよしこ」に出てくる少年「きよし」も、吃音に悩みながら、厳しい現代社会の中で、心のよりどころを探し、自分を見つめ、成長していきます。

そんな「きよしこ」は、橋村先生のオリジナルで、岡崎市内初上演になります。自分も初めて見る劇でしたが、これまで十二年間を懸命に生きてきた子供たちには、そして大人にもどこか心に刺さる内容でした。そして作品の中で成長していく「きよし」同様、子供たちも劇を通して、大きく成長したように思います。

一、二年生は、何より六人であれだけのせりふや動き、歌まで全てやり遂げたことが、大きな成長と言えるでしょう。三、四年生は、メッセージ性のある劇で、伝えたいことを伝えようとした。五、六年は、複雑な人の思いや感情を、その人になりきって表現しようとした。学芸会の魅力の一つは、こうした点にあります。実際の現実社会ではない世界で、その登場人物や作品の世界に入り込むことで、その人や作品の思いを伝えようとしたり、自分自身を見つめたり、仲間との関係を見つめたりします。

実際、下見の会を終えた子供たちは、終わってホッとしてはいないものの、まだどこか心配で、疲れて下を向いている様子でした。確かに少ない人数で大きな劇を行うのは大変なことです。けれど、学芸会本番は、言葉や歌声、振る舞いに力がこもり、舞台が終わり、客席を見つめ返す目には、自信と満足感を感じました。人は、困難を乗り越えて、成長すると言います。個々に様々な思いのある中、劇を成功させるために乗り越えてきた時間と壁が、子供たちの心を鍛え、成長させたのだと感じます。学芸会に限らず、こうした行事が子供たちを輝かせ、成長の場となるといいと思います。

・学芸会にあたり、劇の応援、衣装等の様々な準備、体調管理等、保護者の方の様々なご支援、ありがとうございました。また、学芸会中の係、さらに終了後の会場の片付けまでお手伝いいただいた皆様、大変ありがとうございました。劇をご覧いただき、応援していただいた皆様に感謝申し上げます。